

# 碩 心

可 行 認 発 会 風 岳 学 院 吟 詩 日 本 社 団 法 人 神 奈 川 碩 心 会

6年 3月現在 返葉大合 子山地 山地区 船地区 計	会員数 174名 223名 42名 439名	(260号)者萃 行 岳 者 愛 集 岳 3月 岸 村 6年 発 根 編 中
---	------------------------------------	--

## 碩心会 皆伝会開催のお知らせ

総務部

日 時・四月二十九日(祭)午前十一時より  
 場 所・堀内会館(電話七五―七九九七)  
 逗子駅より、海岸廻り葉山行のバ  
 スで「元町」下車  
 会 費・三千五百円  
 申込方法・支部毎にとりまとめ、会費を添え  
 各地区の代表幹事へ申込みのこと  
 申込先・逗子地区 (綾部秋岳)  
 葉山地区 (鈴木孝岳)  
 大船地区 (山口夕岳)  
 申込×切・四月十五日厳守  
 参加資格・皆伝位取得者  
 (平成六年新取得者を含む)  
**県本部 高段者審査会終る**  
 去る2月13日(皆伝)20日(九段以上)の  
 審査が平塚農業会館で行なわれ、受審者全員  
 合格されました。おめでとうございます。許  
 証は総本部審査委員会を経て、五月一日付で  
 認許される予定です。

## 県本部 吟行会のお知らせ

日 時・十一月二日(火)〜五日(土) 三泊四日  
 旅行費・十一万五千円  
 主なコース・  
 飛行機 船  
 一泊二日 二泊三日 三泊四日  
 (一日目)  
 東京8・50頃―福岡―太宰府―有田―平戸  
 島(平戸城・松浦資料館)  
 (二日目)  
 ホテル―平戸港(九十九島めぐり高速船)  
 〽ハウステンボ―西海橋―長崎京泊  
 (三日目)  
 長崎京泊―長崎市(大浦天主堂・クラブ―  
 園)―愛野―雲仙仁田峠―雲仙泊  
 (四日目)  
 雲仙温泉―多比良港―長洲港―柳川(川下  
 り)・白秋記念館―熊本―東京19・30頃  
 参加申込・村田瀬岳方〽七―一六〇四七  
 払込方法・(分割の場合は左記の通り)  
 四月:二万円 五月:一万五千元  
 六月:一万五千元 七月:一万五千元  
 八月:一万五千元 九月:一万五千元  
 十月:二万円(十月分は20日迄に払込)

## 岳風先生の生い立ち (その2)

(少年時代・青年時代)

### ◎家運の衰退

父・百造は武士の持つ厳しさの反面、人情家でもあった。人に迷惑をかけない、人のためにはなんでも奉仕する」という躰が身にしみ込んでいたという。そのため、知人、親戚等の持ちよる各種の証文に受け判を押し、結果として代々の広大な山林、田畑も皆、他人のための弁済に供される、という事になり、家は上諏訪の資産家から一挙に衰退の道を迎えていった。

この環境の変化には、少年期での彼は少なからず影響を受けた。だがしかし、不平不満を決して人に向って言わず、胸に納め、一人でそれを解決し誰にも迷惑をかけない、という後年の彼の気質は、この頃に芽生えていたと言えるだろう。

また、小学校の五、六年生頃になると、体力にも勝れ、相撲も五人抜き、十人抜きとその力量を見せていた。それとこの頃の少年達には、好んで伝記物を良く友達同志で回し読みをしていた。彼も特に「大西郷・武田信玄・

アレキサンダー・ナポレオン」等を繰り返し読んでいた。

### ◎中学生時代

明治45年3月25日、諏訪尋常小学校を卒業。この一カ月前、長野県下一斉の小学校六年生の学力テストにおいて、全県下六年生で六位という素晴らしい成績を収めている(注||竹之内省三氏の明治45年の日記より)。

同年4月4日、諏訪中学に入学。この中学校は県下でも有数の名門校であった。

この頃諏訪には良く東京から著名人が来て時局講演会を開いていた。代議士・中野正剛もその一人であり、ある夜、その講演会に行った彼は、非常な感銘を受けることになる。つまり、目が外の世界に向いた、または開いた、という感じで、大物になりたい、何か人々に尊敬される人物になりたい、という意識の変化を得たのである。自分の将来、というものに青雲の志が湧いてきたのである。人よりが一まわり大きく、無口でたえず思索に耽けるタイプの彼は、ほかの同級生よりも時事に対し感受性が強かったと言えよう。

### ◎幼年学校受験の失敗

だが、彼の周囲の事情はこの時の彼の志を

満たすには充分ではなかった。松本家の長男：という事が終始ついてまわり、彼を自由にさせず、ために中学を三年で終える結果となり、また、両親には黙って向上心を満たそうとした、陸軍幼年学校受験ということも失敗に終わった。

大正4年3月、あと旬日で終業という一日、残雪におおわれた地藏寺山へ彼は一人で登り、そしていつものように力一杯、大声を張り上げて詩を吟じたのであった。だが、それはいつもの力強い彼の吟声とは程遠いものであったという。

### ◎青年期

大正4年3月24日、彼は三年終了組と一緒に諏訪中学の校門を出た。

このあと、彼は一度夢を満たすべく東京に家出する。が、これがバレて郷里に叔父と一緒に連れ戻される。その叔父の世話で製糸会社片倉組・本庄工場(埼玉)に就職する。この時、朝鮮工場に行く機会をとらえ、一年余、この朝鮮工場に勤務するが、後年、この経験は「書懐・西郷南州作」を吟ずるのに大いに役立った、とある吟友に語っている。

(岳風会発行準師範研修講座テキストより)

## 教場風景

(堀内・D組)

中村 岳 愛

“共に勉強”(火曜教場)

指導の立場として、稽古前には自分なりに参考書等めくり、詩の内容、語釈、作者、そして節調等勉強してのぞみます。とはいっても、いいわけになります。私も吟、舞、広報、県本部庶務の仕事等々、忙がしい毎日、ブツケ本番的な勉強で申しわけなく思っております。そんなことで常に皆さんと、

“共に勉強”させていただいております。

火曜教場の今回の勉強の課題に「晩秋舟行」がありました。私もあらかじめ勉強してのぞみましたが、皆さんと何度も吟じてこんでくうち、古き時代の静かな晩秋の川面、川の対岸に霜に紅葉した楓の、夕日の光をうけた燃えるような美しさ、そして夕闇の静寂の中、夕日に赤く染まった舟が静かに浮ぶ様等が、目のあたりに浮んできて、まさに一幅の画をみる思い。皆さんも異句同音にすばらしいの連発で、吟じこめばこそその思いをあらたにし、その大切さを痛切に思った。この詩は私も今迄、通りいっぺんに目を通してきた詩であつ

たが、皆さんと共に勉強して、詩の内容が理解でき、魅きつけられました。そして、次の稽古までに「感情が出せるよう練習」を約束して、充実した稽古を終わりました。

“開設二十余年”(木曜教場)

木曜教場は開設以来二十余年が過ぎ、十段筆頭者ハシリを筆頭に、来年十段受審者が三人、今年九段に合格された方等、高段者の多い教場です。

又会員は男・女半々ということも特徴です。男性の皆さんはまだ仕事をお持ちの方ばかりで忙しい中を出席。又遠く磯子の方から休まず通われる方もいます。又女性の方達も、寒い冬の夜休まず出席され、皆さんの熱心さに頭がさがります。

今週の稽古は、来る二十日に八段受審の方を重点に勉強。熱心に勉強されている事が、皆さんにも感じとれ、頑張つて！の声しきり。そして他の方達は、先週の「小楠公の母」をもう一度順番に吟じていただきましたが、これ又節調正しく上手に出来、熱心に勉強してきたことが感じられ、嬉しく思いました。お互いに健康に留意して、いつまでも楽しい教場であるよう、がんばりたいと思います。

## 緊張感

滝の坂 小峰 悠 風

ビーチセンターの初吟会も楽しく終り、さあこれから…学校でいえば三学期が始まると思うと、お正月でゆるんでいた気持ち、ひきしまる思いがします。

春の審査には私達の教室から、六名の生徒が審査を受けることになりました。お教室に通い、先生のご指導をいただき、一人づつ順番に吟じてゆきますが、何か背中にピンピンと緊張が感じられます。

先日のビーチセンター初吟会の折、根岸岳萃先生が私共の席にこられ、色々お話を伺い、そのあと私は「審査がなければよいお稽古事だけど…」と、失礼とは思いますが言ってみました。先生は笑って、「あの緊張感がいいんだよ、人間は一生勉強だ、がんばりなさい」といわれました。

今、私は教本と首つ引き…書取は免除される年令になりましたので内心ホッとしているところです。当日落付いて審査が受けられますよう、折るばかりです。

## 頼山陽と日本外史

江戸末期の漢学者・歴史家頼山陽は、安芸の人。父頼春水も儒学者。十四才の時「述懐」という詩で、「安ぞ古人に類して千載青史に列するを得ん」（どうか偉大な古人の仲間となり、千年の後まで名を歴史にとどめたい）という気魄を述べ、好んで歴史を学んだ。詩文書画にも巧みで、多くの著書を残したが、漢文体の歴史書「日本外史」もその一つである。源平の二氏から徳川氏に至る、およそ七百年の武家の興亡を漢文体で記し、それぞれ論評を加えたもの。この書を通して山陽は、武家の横暴と、皇室の尊ぶべきことを読者に知ってもらおうとした。南朝正統論など、全編を通じての朱子学的尊王精神は、明治維新の思想に大きな影響を及ぼした。

(教本に記載されている記)

不識庵機山を撃つのに題す・八幡公・前兵児の謡・本能寺・楠公子に別れるの図・蒙古来・楠河州の墳に謁して作有り・後本能寺・静御前・天草洋に泊す・述懐・母を懐う・侍興の歌・冑山の歌他。 岳愛記

## 月報へ寄稿のお願い

月報「碩心」も創刊以来二十年余りがすぎました。このように長い年月続いていることは他にあまりなく、おかげ様で評価されています。そこで皆様にも寄稿の協力をぜひお願いします。

詩吟に対する建設的なご意見、抱負、マンネリ化に対する新しい試み、思い出の詩、好きな詩にまつわる話、教場風景、行事等々、何なりとお寄せ下さるようお願いいたします。

(住所変更)

441 駒場咲山・新住所は横須賀市武三一九-26

(入会)

706 栗林義弘 横須賀市佐原三一六-16-302

(返子A) ☎〇四六八-三七七八三六九

707 川瀬ゆき子 横須賀市林五二二-二七

(返子A) ☎〇四六八-五六一四六五四

708 井上豊子 横須賀市林四一四-十二

(返子A) ☎〇四六八-五六一四六四五

709 植村和成 三浦市初声町和田一六六八-五

(返子A) ☎〇四六八-八八二〇六六

710 矢田律子 横須賀市林五二二-三七

(返子A) ☎〇四六八-五七五四一五

711 野末三雄 横須賀市長井町二一八

(返子A) ☎〇四六八-五七一九九五

712 久永博 横須賀市平作四二二-二十

(返子A) ☎〇四六八-五二一五四六五

713 風間ケイ子 横須賀市武一一九-七

(返子A) ☎〇四六八-五七二二八一

714 津止京子 横須賀市武三十八-一六

(返子A) ☎〇四六八-五七二〇五二四

715 渡辺ほのか 横須賀市林四一六-三

(返子A) ☎〇四六八-五六一八九四六

716 植村純一(少) 三浦市初声町和田一六六八-五

(返子A) ☎〇四六八-八八二〇六六

717 植村優子(少) 右に同じ

(返子A) 右に同じ

718 根岸仁睦 葉山町長柄六七七-四八

(返子A) ☎〇四六八-七五七七四九八

719 星野トシ子 葉山町上山口一六六九

(吟秀) ☎〇四六八-七八一八九〇〇

720 門間十四子 葉山町長柄六八八-三

(長柄) ☎〇四六八-七五〇九七六

(退会)

79 小峰紅岳(諏訪) 222 青木昇風(下山口)

467 佐々木邦山(銀詠) 595 関恒雄(山ノ根)

644 大家恭子(銀詠)